



PATEK PHILIPPE
GENEVE

《報道資料》 ページ 1

バーゼルワールド2015

パテック フィリップ ジュネーブ

2015年3月

**パテック フィリップ・カラトラバ・パイロット・トラベルタイム5524 モデル：
パテック フィリップの歴史的アヴィエーター・ウォッチへのオマージュ**

新しいカラトラバ・パイロット・トラベルタイム5524モデルによりパテック フィリップは、航空界の勇気あるパイオニアたちを賛え、航空史のマイルストーンに思いを馳せ、この著名なジュネーブの独立した家族経営の時計メーカーもまた大空の征服に寄与してきたという事実を改めて示した。

1903年12月17日、ライト兄弟により初の動力飛行が行われてから、1927年、チャールズ・リンドバーグが単発飛行機《スピリット・オブ・セントルイス》号により初の大西洋横断飛行に成功するまではわずか24年であった。これほどの技術的進歩がこれほどの短期間で成し遂げられたことに、我々は驚きを禁じ得ない。時計製作の分野では、20年弱の期間で同様の変化が起こった。懐中時計から腕時計への進化である。しかし空飛ぶ機械を操縦する勇敢な男たちと時計製作者たちの間には、もうひとつのつながりを見出すことができるのである。十八世紀に始まった遠距離航海においてと同様、アヴィエーターたちは、飛行のために時間計測機器を必要とした。アメリカ海軍士官フィリップ・ヴァン・ホーン・ウィームスは時角時計のアイデアを思いついた。これは後にチャールズ・リンドバーグの助言に従って改良され、六分儀および無線信号と共に用いてより簡単に、迅速に、正確に現在位置を求めることのできる計器となった。パテック フィリップは、2点のきわめて特筆すべき時角腕時計（サイデロメーター）を開発した（別添資料参照）。これらはいずれも今日、パテック フィリップ・ミュージアムに展示されている。

旅先でも正確な時刻を知ることのできるトラベルタイム

パテック フィリップのカラトラバ・パイロット・トラベルタイム5524モデルは、航空機による大空の征服と、腕時計による世界の制覇を象徴する、きわめて男性的な腕時計である。それはGPSによる航法の普及と共に時代遅れとなった時角時計へのノスタルジックな懐古でなく、今日の航空機による旅行の際、とりわけ有用なデュアル・タイムゾーン機能を搭載した高精度で信頼できる計器なのである。パリとロンドンの時差は1時間であり、ニューヨークと北京の時差は13時間である。数百キロメートル移動して空港に降り立つと、そこ（現地）は出発地（自宅や勤務先）とは異なったタイムゾーンである。東に向かって移動するにしたがい時刻は進み、西に向かって移動するにしたがい時刻は遅れる。80年近くにわたりパテック フィリップのタイムゾーン・ウォッチは、タイムゾーンの問題を他に類を見ないシンプルな方法で解決してきた。1930年代、マニュファクチュール パテック フィリップは、天才的な時計製作者ルイ・コティエの協力の下、最初のワールドタイム機構を開発した。1959年には、今日あまねく知られているトラベルタイム機構の特許を取得した。民間航空の発展によりヨーロッパとアメリカ間を数時間の直行便で旅行できるようになった当時、きわめて容易に2つのタイムゾーンの時刻を表示できるこの機構が大いに歓迎されたことはいうまでもない。

今日に生きる技術革新の伝統

175年をこえる歴史を通じ、伝統と革新の融合はパテック フィリップ哲学の中心をなすものであった。1996年、マニュファクチュール パテック フィリップはデュアル・タイムゾーン機構をさらに完璧なものとし、これに関する第2の技術特許を取得した。この改良は、ケース側面の2個のプッシュボタンのいずれかを押して現地時刻を1時間単位で前



《報道資料》 ページ 2

進または後退させる際、タイムゾーン表示機構をムーブメントの他の動きから分離する、隔離機構に関するものであった。これにより、タイムゾーンの変更がテンプの振り角や振動の規則性にまったく影響を与えることがなくなり、計時精度が格段に向上した。自動巻ムーブメント、キャリバー324 S C FUSを搭載した新しいカラトラバ・パイロット・トラベルタイム5524モデルは、この洗練された機構に加え、センターセコンド、指針による日付表示、21金中央ローターを備えている。精緻に仕上げられたこの伝説的なムーブメントもまた、パテック フィリップの絶え間ない技術革新を体現しているのである。ジャイロマックス・テンプ (Gyromax®) に加え、シリコン・ベースのハイテク素材Silinvar®製のSpiromax®髭ぜんまいが採用されている。Silinvar®の他に類を見ない特性と、常に同心円性を保ちながら伸縮するSpiromax®髭ぜんまいの特許取得の形状により、パテック フィリップ・シールに定められた日差-3〜+2秒という計時精度、そして驚異的な信頼性が実現されている。サファイヤクリスタル・バックを通して、受け (ブリッジ) の縁に施された面取り、表面に施されたコート・ド・ジュネーブ装飾、自動巻ローターに施されたサーキュラー・コート・ド・ジュネーブ、センターのペルラージュ、側面の渦巻模様、カラトラバ十字などの精緻な仕上がりを鑑賞することができる。さらに銀色に輝くムーブメントの表面に施されたゴールドのエングレービングと赤い穴石 (ルビー) のコントラストは、この世のものとも思われぬほどの美しさである。

テクニカルでエレガントな外装

294個の部品から構成されるキャリバー324 S C FUSを内に秘めた文字盤は、パイロット・ウォッチに多用されるブラックではなく、1930年代の米軍戦闘機を連想させる、エレガントなニス塗装のブルーである。スーパールミノヴァ夜光付の大型ホワイトゴールド植字アラビア数字とスチール製バトン型時・分針が現地時刻を昼も夜も最高の視認性で表示する。すべてのトラベルタイム・モデル同様、出発地時刻を表示するスケルトン時計は、謹み深く裏方に徹している。異なったタイムゾーンを表示する必要のない時は、スケルトン時計は完全に通常の時計の下に隠れる。3時位置 (出発地) と9時位置 (現地) の昼夜表示窓が、それぞれのタイムゾーンが現在昼か夜かを表示する。まったく新しい6時位置の日付表示サブダイヤルは、初めて日付を3日おきに数字で示しており、シンプルでしかも読みやすい表示となっている。新しいカラトラバ・パイロット・トラベルタイム5524モデルのピュアでクラシックな外観は、大型のホワイトゴールド仕様カラトラバ・ケース (ケース径42 mm) によってさらに強調されている。滑らかなベゼルは外側に向かってわずかに傾斜している。またスリムなラグのフォルムがケースと完璧なハーモニーを見せている。リュウズ、および8時位置 (前進) と10時位置 (後退) の2個の現地時刻調整プッシュボタンには刻みが入り、精密計器にふさわしい操作性とテクニカルなタッチを誇っている。またプッシュボタンは特許登録のセキュリティー・システムを備えており、誤って現地時刻を変更してしまう危険がない。操作の前に、まずプッシュボタンを1/4回転させてロックを解除する (刻みが入っているため操作は容易である)。操作が終わったら再び1/4回転させてロックする。安全を第一に考えた設計は、このタイムピースのスタイルと完璧にマッチしている。ヴィンテージ・ブラウンに明色のステッチでコントラストを持たせたカーフスキン・バンドは、クラシックな飛行服の革ベルトを思わせる。ホワイトゴールドのネジ止めピンバックルも同じテーマを追求しており、パラシュートとサバイバルキットを飛行服に安全に固定するハーネスからインスピレーションを得ている。

新しいカラトラバ・パイロット・トラベルタイム5524モデルにより、パテック フィリップは、クラシックなカラトラバ・コレクションに、パイロット・ウォッチの伝統を受け継ぐ、きわめて男性的なラージ・サイズのモデルを加えた。しかし同時にブルーの文字盤、ホワイトゴールドのケース、デュアル・タイムゾーンの時刻表示などの重要なディテールが、このタイムピースを独自性溢れるものにしていく。純粋にテクニカルな要素とコンテンポラリーなエレガンスのいずれにも妥協することなく、この両者を完璧なハーモニーの下に融合することにパテック フィリップは成功したのである。



技術仕様

パテック フィリップ・カトラバ・パイロット・トラベルタイム5524モデル

ムーブメント	キャリバー324 S C FUS 自動巻ムーブメント デュアル・タイムゾーン（出発地と現地時刻表示）、出発地と現地各々の昼夜表示、日付を指針表示
直 径：	31 mm（基本 キャリバー27 mm、カレンダー・タイムゾーン・モジュール31 mm）
厚 さ：	4.9 mm（基本 キャリバー3.32 mm、カレンダー・タイムゾーン・モジュール1.58 mm）
部品総数：	294個
石 数：	29石
連続駆動可能時間：	最小35時間、最大45時間
巻上げローター：	単方向巻上げ式21金中央ローター
テンプ：	Gyromax [®]
振動数：	28 800 振動（片道）／時（4 Hz）
髭ぜんまい：	Spir omax [®]
髭持ち：	固定式
セッティング機能：	リュウズの2位置 ・押し込んだ位置： 巻上げ ・引き出した位置： 時刻合わせ
表 示：	現地時刻表示用時針（上側） 出発地時刻表示用時針（下側） 分針 センターセコンド 現地の日付を指針表示（6時位置）
表示窓：	出発地時刻の昼夜表示（3時位置） 現地時刻の昼夜表示（9時位置）
調整ボタン：	日付調整（6～7時位置）
プッシュボタン：	現地時刻を1時間刻みで前進（8時位置） 現地時刻を1時間刻みで後退（10時位置） 特許登録のセキュリティ・システム（プッシュボタンを1/4回転させてロックおよびロック解除を行う）
認定印：	パテック フィリップ・シール



外 装

- ケース： 18金ホワイトゴールド
サファイヤクリスタル・バック、防水ねじ込み式リュウズ
3気圧防水
- ケース寸法： 直径： 42 mm
長さ： 50.75 mm (ラグ～ラグ)
幅 ： 48.53 mm (3時～9時、 リュウズを含む)
厚さ： 11.01 mm (サファイヤクリスタル・ ガラス～ラグ)
厚さ： 10.78 mm (サファイヤクリスタル・ ガラス～サファイヤクリスタル・ バック)
ラグ間隔： 21 mm
- 文字盤： 真鍮、ニス塗装ブルー
スーパールミノヴァ夜光付18金ホワイトゴールド植字アラビア数字
スーパールミノヴァ夜光付ブルースチール製バトン型現地時刻表示用時・分針
ラック・ホワイト・スチール製バトン型スケルトン出発地時刻表示用時計
スーパールミノヴァ夜光付ブルースチール製秒針
ラック・ホワイト・リーフ型日付表示針
- バンド： ヴィンテージ・ブラウンに明色のステッチでコントラストを持たせたカーフスキン
18金ホワイトゴールドのネジ止めピンバックル付





別添資料

パテック フィリップによるパイロットのための時角時計（サイデロメーター）

時角時計（サイデロメーター）は、恒星時（サイデラル・タイム）により時刻を表示する時計である。恒星時とは、きわめて遠方にある恒星（または天球上の春分点）が、見かけ上、地球を一周する（正確には任意の子午線上を2度通過する）のにかかる時間を1恒星日とし、これを24で割ったものである（「見かけ上」と言ったのは、実はガリレオによれば地球の方が自転しているからである）。一方通常的时间（平均太陽時）とは、地球の公転軌道を太陽を中心とする真円と仮定し、さらに地軸が公転面に対して直立していると仮定した場合に、太陽が見かけ上、地球を一周する時間を1平均太陽日とし、これを24で割ったものである（ちなみに真太陽時とは、実際の太陽が見かけ上、地球を一周する時間を1真太陽日とし、これを24で割ったものであり、均時差とは平均太陽時と真太陽時の較差を分単位で表したものである）。1恒星日は1平均太陽日より約4分間短い。その理由は地球が太陽の周りを公転しているからである。

パイロットは昔、夜間の海上などでは、恒星の高度を六分儀で計測し、時角時計を用い、無線による恒星時の時報を加えて正確に経度と緯度を求めていたのである。

1936年、パテック フィリップは2点の時角腕時計を製作した。この2点は今日、ジュネーブのパテック フィリップ・ミュージアムに展示されている。ひとつはNo. 170 383（ケース番号No. 613 411、PPM 844）、今ひとつはNo. 170 381（ケース番号No. 613 559、PPM 1655）であり、後者はさらにスプリット秒針クロノグラフを搭載していた。いずれもケース径は55 mmである。最も特徴的なのは、時刻が次のように角度（時角）で記載されていることである。この表示方法により、パイロットは時刻と時角の面倒な換算をする必要がない。別添の写真（No. 170 383 の時計）によりその表示方法を説明しよう。

- ・ 60度表示針：24時間で文字盤を1周し、1周が360度。目盛に60、120、180、240、300、0/360の数字が入っている。

- ・ 度表示針：4時間で1周し、1周が60度。この数値を時表示の数字（60、120、180、240、300、または0/360）に加えてやれば、角度が度単位まで求められる。

- ・ 分表示針：4分で1周し、1周が60分（度の1/60）。この数値により角度が分単位まで求められる。

写真の例では、次のようになる。

- ・ 60度表示針：300の数字を読み取る。
- ・ 度表示針：7の数字を読み取り、300に加えれば、307度が求められる。
- ・ 分表示針：34の数字を読み取り、上記に加えれば、角度が307度34分であることが分かる。

これを通常の時時刻表示（時、分、秒）に直せば、20時30分16秒となる。何となれば、24時間＝360度であるから、 $307.566... (307度34分) \times 24 \div 360 = 20.504... (20時30分16秒)$

しかしやがて無線航法システムが出現し、時角時計による現在位置特定は不要となったため、その開発はほどなくして中断されて今日に至る。